

競馬場の馬場層の切削

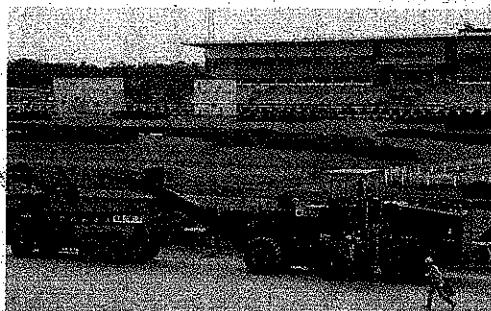
作業能力4割アップ

NI PPO 情報化施工にも対応

NI PPOは、競馬場の馬場を改修する際、セツト層の切削を効率良く行える新型機械を開発し、佐賀競馬場（佐賀県鳥栖市）の馬場改修工事に採用した。旧型の倍以

上となる364キロワットの高出力エンジンを搭載。作業幅が一般的な路面切削機（2・0メートル）より広い2・7メートルとなっており、作業能力は4割程度高まったという。情報通信機

器を駆使する情報化施工への対応も可能で、施工管理をミリ単位で行えるのも特徴。今後、全国の競馬場の工事で採用を提案する。



新型レーストラックリフォームによるセツト層の切削作業

開発したのは「レーストラックリフォーム」の新型機。ビットが付いたローラーを回転させて切削作業を行う。エンジン出力を旧型（154キロワット）より大幅に高め、作業スピードをアップ。積み込み装置を備え、切削材を効率よく搬送できるようにした。情報化施工を適用した場合の性能も確認。大宮総合技術センター（さいたま市西区）で行ったセツト層の削り取りでは、ミリ単

位の精度を確保できたという。

セツト層は、馬場の表層にあるクッション砂の粒子がレースや調教によって碎け、堆積したもので、厚くなりすぎると馬場が硬化し、水はけが悪くなる。佐賀競馬場では、ダートコースの既設クッション砂を撤去した上で、新型レーストラックリフォームでセツト層を切削した後、クッション砂を敷きならした。同競馬場は通年開催。作業性を高めたことで、工期の制約がある中でも当初の計画通り作業が行えたという。

NI PPOは新型機について「ダートコース改修の施工能力が高まり、精度も確保できる。セツト層のメンテナンスに対して有力な武器になる」（石川公一取締役常務執行役員第一営業本部長）としており、全国の競馬場のダートコース改修工事で提案活動に一段と力を入れる方針だ。